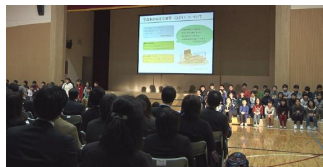


## 盛岡発

## 「復興教育」発表会



「いわて復興教育」の推進校として県の指定を受けている盛岡市立向中野小学校の4年生から6年生まで200人

余りの児童が、保護者や地域の人たちに学習の成果を発表しました。たびたび宮古市を訪れたという5年生は仮設住宅での生活を寸劇にし、赤ちゃんの夜泣きで肩身の狭い思いをしているお母さんや孤独を感じるお年寄りの心を代弁しました。子どもたちは、「自分たちに何ができるのかを考え続けることが大切」と訴えていました。

(1/31 ニュースエコー)

## 釜石発

## 「災害公営住宅」完成

県が釜石市平田地区に整備を進めていた鉄筋コンクリート7階建ての災害公営住宅が完成し、入居者に部屋が引き渡されました。入居



者は、県の担当者から部屋の設備の操作方法などの説明を受けたあと、カギを受け取っていました。この公営住宅では126戸が整備されましたが、まだ44戸が空室となっていて引き続き入居者を募集しています。(2/1 ニュース)

## 宮古発

## 移転先の見学会

津波により甚大な被害を受けた宮古市田老地区で高台移転先の現場見学会が行われ、およそ170人の移転希望者が工事の進み具合を確認しました。田老市街地の北東部、乙部地区に造成中の高台移転先では木々の伐採作業も終わり、土の切り盛りが行われていて進捗率はおよそ30%となっています。参加者たちは最高点にあたる標高83メートルの地点から事業概要と進捗について説明を受けまし



た。田老地区の高台移転先は当初の計画より半年早く、来年秋には住まいの再建ができる予定です。

(2/2 ニュース)

## 釜石発

## 韋駄天競争開催



震災の教訓を祭りとして残そうと、住宅地から高台へと駆け上がる速さを競う「韋駄天競争」が釜石市で開かれ

ました。これは津波避難の大切さを伝えるため釜石市のお寺・仙寿院が節分の行事としてはじめてものです。行事に参加した男女合わせて40人は、釜石市只越町の住宅地から寺までのおよそ300メートルを全力疾走していました。一番早くたどり着いた人は「福男」と「福女」として認められるということです。(2/2 ニュース)

## 宮古発

## JR山田線の早期復旧要望

震災後から不通となっているJR山田線の宮古・釜石間について、宮古市の八木沢地区の住民が宮古市長に早期復旧などを求める要望書を手渡しました。

要望には不通区間の早期復旧、JRによる運営、そして短大や高校があり災害公営住宅も建設予定の八木沢地区への駅新設が盛り込まれています。要望書を受け取った山本宮古市長は「復旧には沿線住民の盛り上がりが必要。いっしょに運動してほしい」と話



していました。(2/4 ニュースエコー)

## 大船渡発

## さんりく元気ラジオ

(ワイドステーション内毎週水曜日放送)

今週は大船渡「FMねまらいん」の田村華恵さんが伝えてくれました。4月5日の三陸鉄道南リアス線全線運転再開を、日常の生活がまた一つ取り戻せると、地元の人たちは心待ちにしています。またFMねまらいんのスタッフを始め多くの大船渡市民が出演している「恋するフォーチュンクッキー・三陸鉄道南リアス線バージョン」が大好評で、再生回数は30万回を突破しています。FMねまらいんは開局10か月を迎え、さらに充実した番組を放送したい、と話していました。(2/5)



「IBC復興支援室だより」facebookでも発信中  
詳細はIBC公式サイトから <http://www.abc.co.jp/>  
IBC復興支援室事務局 019-623-3122